

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

H29年7月20日

三田市議会議長 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します

会 派 名	盟政会	代表者	今北義明
		議員名	印
派遣者氏名	今北義明・福田秀章・森本政直・幸田安司・白井和弥		
視 察 先	① 愛知県犬山市 ② 愛知県東海市		
調査事項 (調査目的)	① 歴史資産を活かしたまちづくりについて ② 東海太田川駅西地区第一種市街地再開発事業について		
日 時	H29年7月18日(火)～ H29年7月19日(水)		
視察先対応者	① ビアンキーアンソニー議長・おかむら千里民生文教委員長・ 教育委員会歴史まちづくり課主査 後藤泰介様 ② 議会事務局 山田祐輔様・東海市都市建設部中心街整備事務所所長 大岩隆様・同主幹 花井範行様・東海市都市建設部中心街整備課課 長 津田誠一郎様・東海市芸術劇場管理課 清水信宏様		
添付資料	① 行政視察資料歴史資産を活かしたまちづくりについて・犬山歴 史的風致維持向上計画一概要版一・犬山市議会概要・市議会だ より・犬山城下町物語・犬山手帖・犬山城下町まち歩き指南書 ② 東海市の概要・東海太田川駅西地区第1種市街地再開発事業に ついて・ユウナル東海・太田川周辺のあゆみ		

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	H29年7月18日(火)14時00分～15時30分
視察先	愛知県犬山市
調査事項	歴史資産を活かしたまちづくり
<p>(調査結果の概要)</p> <p>犬山市は犬山城を中心に発展した城下町で昭和29年に市制が施行され、現在約75000人が暮らすまちです。年間54万人が訪れる犬山城と茶室「如庵」の二つの国宝を有し、国指定史跡の青塚古墳や多くの社寺仏閣、また一級河川木曾川等多くの歴史資産を有しています。そしてこれらの歴史資産を活用し、3万人が集まる犬山まつり、石上祭、木曾川の鶉飼い、日本ライン夏まつりをはじめ、多くのイベントで観光産業を盛り上げています。</p> <p>現地視察として、犬山城の正面の本町通を歩いてみると統一感のある色調の街並みに多くの店が軒を連ね、平日にも関わらず多くの観光客の姿がみられた。</p> <p>犬山市では国土交通省が所管する社会的資本整備総合交付金等による財政的支援を見込み、平成21年に平成30年までを期間とする歴史的風致維持向上計画を作成した。その他にも街並み環境整備事業を活用し、歴史的風致形成建造物の修理や復元を行ったり、都市公園等事業補助を活用し景観を尊重した内田防災公園を整備している。</p> <p>一方ソフト面では市の魅力を伝えるパンフレットの整備や、歴史関連文献のデジタル化、伝統行事に対する補助金の充実などにも力を入れている。</p> <p>これらにより、城下町地区の景観や街並みは大きく変わったが、一方で空き家が増えたり、古い建物が徐々に滅失されている状況も現実には拡大している。行政だけではなく、住民や関係者がどれだけ共通認識を持てるかが直近の課題となっている。</p> <p>(所見)</p> <p>歴史的風致維持向上計画は住民や関係者の意識変革に大きな影響があったと考える。三田市においても目的を明らかにし、その達成に向けて市民の意識を統一させていく仕掛けは参考にできる。また、財政が圧迫される中で、助成金や補助金の活用は力を入れていくべきだと考える。三田市においても国宝クラスの歴史的資産はないが、点在する歴史資産を活用し、町の活性化、観光産業の強化につなげていきたい。</p>	

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。(代表者名、派遣者氏名は不要)

調査日時	H29年7月19日(水)10時00分～12時00分
視察先	愛知県東海市
調査事項	東海太田川駅西地区第一種市街地再開発事業について
<p>(調査結果の概要)</p> <p>東海市は昭和44年愛知県下23番目の市として誕生しました。名古屋港や中部国際空港にも近いことから徐々に発展し続けている町です。面積は三田市の約5分の1の43.43㎦ですが、三田市とほぼ同じ11万4千人が生活しています。現在年間1000人程度ずつ人口は増え続けています。東海市は2町合併で誕生したので市の玄関口になる場所がありませんでした。そこで太田川駅前を再開発して東海市の玄関口にしようという機運が高まりました。その事業は3つの事業からなり、第1段階で土地区画整理事業、第2段階で連続立体交差事業、そして最終段階の駅前再開発事業となっています。再開発の面積は64.3haあり、それを名阪鉄道が北から南に走っていることで東西に分断されていました。地権者は西側19人東側13人ありました。区画整理によって更地になった後には連続立体交差事業として371億円をかけて3Fの高さまで高架がかけられました。その後駅東地区では民間開発業者により、また駅西地区は行政が主導しながら154億円かけて再開発事業をおこないました。構想から完成まで30年かけて完了したこれらの事業によりハード面が整備されると、東海市のポテンシャルに気付いた人たちがあつまり、年々発展しているとの事です。</p> <p>(所見)</p> <p>駅西地区は再開発により90億円の予算で芸術会館がつけられ、客席数1025席の大ホールをはじめ、様々なレンタルスペースがあります。人口やホールの客席数等、なにかと三田市との共通点が多い東海市ですが、再開発に関してはCブロックにおいて地権者が60数名あり、店舗や店子がついているのに対して東海市では地権者がトータルでも30数名しかいない上に、そのほとんどが農地でその中に住宅が点在するような状況でした。ですのでこれからCブロックの開発に着手するのは少し状況が異なる状況です。しかしながら、三田市で立体交差が出来ていないが故に駅北と駅南の一体化が出来ていないのに比べて、第2段階の連続立体交差事業を着実に達成していたことは非常に有意義だったと感じます。Cブロックの再開発でもしっかりと将来を見据えて、たとえ困難でもやるべきことはしっかりとやっておく、この事が大切であると考えます。</p>	